

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495000521	事業の開始年月日	平成28年12月1日
		指定年月日	平成28年12月1日
法人名	株式会社ケア		
事業所名	グループホームみよの		
所在地	(210-0821) 神奈川県川崎市川崎区殿町2丁目14-11		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和7年2月1日	評価結果 市町村受理日	令和7年5月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

2階「できなくてもいいんだよ出来ることをさがそうよ」3階「明るく・楽しく・元気よく」を各理念に掲げ笑顔あふれる施設を目指しています。入居者の思いを少しでも実現に近づけるよう努めております。
大家族で暮らしていという考え方のもとで個人の能力を生活に生かし個人にあった生活が出来るように努めています。「出来ること」を常に探します。食器拭き、洗濯物干し、たたみ、掃除等の家事はもちろんのこと季節感のある工作の作成や手作りおやつ、普段の食事とは違った食レク等を行事に取り入れています。合同レクでは誕生日会、初詣、川崎大師参拝、秋祭り、運動会、ハロウィン、クリスマス会他、職員共々一緒に楽しめるよう心掛け行っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年3月24日	評価機関 評価決定日	令和7年4月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、京浜急行大師線小島新田駅から徒歩7分のところにあります。近隣には住宅も多く、閑静な雰囲気です。

<優れている点>

「みんなを笑顔にしていこう」という共通のテーマを掲げています。職員は出勤後、利用者一人ひとりに挨拶をし、昼食前には皆で歌を歌います。挨拶や歌を歌うことで、利用者の笑顔を引き出し、明るい雰囲気を作り出しています。父母祖父母を敬う気持ちを強く持つ外国人国籍の職員は、利用者に対して尊敬の念を持ち支援にあたっています。また、仕事に対する意欲と向上心が高く、その姿勢は日本人職員にとって刺激となり、相乗効果によって全体的なサービスレベルの向上に繋がっています。

<工夫点>

毎月行われる誕生日会に加え、月ごとに季節のイベントを開催しています。1階にある地域交流スペースや屋上庭園を利用して、2ユニット合同で利用者や職員の交流にもなるイベントの機会を設けています。年2回利用者全員での花見や、川崎大師詣など外に出かけるイベントを行っています。車いす利用者も含めて全員が参加できるイベントにするために、時間をかけて職員のシフトを工夫して組み、近隣系列事業所の職員や臨時勤務に応じてくれるパート職員の応援も受けながら、着実に実行しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームみよの
ユニット名	みよの2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「利用者の笑顔のため」スタッフ全員で理念を共有し実践に繋げられよう心掛けています。 外国人スタッフ用にフリガナをふったものも準備し理解をしてもらっています。	「笑顔の提供」と題する行動指針集を作成しています。「入居者様の笑顔の為に、スタッフは笑顔を絶やさず明るい施設にします」など8項目を掲げています。ふりがなを付した版も用意して、ミーティングの際は外国人職員も含め、全員で読み合わせを行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事「公園の草むしり、盆踊り大会、廃品回収他、利用者様と参加するし地域とのコミュニケーションを大事にしています。近隣の江川幼稚園とも仲良くしお祭り用のテントを借りる等、協力してもらっています。	殿町町内会に加入しています。コロナ、インフルエンザ対策上、施設内での交流は控えていますが、草むしり、盆踊り、廃品回収では、利用者とともに参加しています。事業所1階の地域交流スペースは、地域住民の会合やイベントなどに利用されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームの行事に参加いただいたり見学していただいたことで地域の方にも認知症の方の理解をしていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月で開催をしている会議では地域とのかかわり、職員研修、行事企画等を計画し意見交換を行い交流を深めよりよいサービスの向上にいかしています	運営推進会議は、2ヶ月ごとに同一法人4グループホーム合同で、利用者、利用者家族、地域包括支援センター職員などの参加を得て実施しています。事業所の地域交流スペースも1回おきに会場になります。毎回、「議題」を決め、意見や提案などを募っています。	4ホーム合同だけでなく、事業所単独で実施したいとの意向があります。省令に基づき、開催回数の半数は単独開催が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	キャラバンメイトの参加、認知症サポーター開催のお手伝い、地域包括との意見交換会等、積極的に参加しております。	行政では、川崎区大師支所が管轄部署になっています。日頃から報告、届け出などを行っている他、利用者の通院では、同部署職員が通院介助を担うこともあるなど協力関係を構築しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束、虐待防止委員会による定期的な研修を行い意見を交換しています。また身体拘束があった場合は話し合い、よりよい方法で対応するようにしています。	「身体拘束実施チェックシート」を作成し、「自分で降りられないようにベッドを柵で囲む」など11項目について、該当する行為の有無を確認するチェックを年4回実施しています。また、身体拘束防止委員会を開催し、業務で参加できないスタッフへは、参加者がフロアミーティングで内容を伝達し、全スタッフへの周知を図っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	マニュアルを作成し防止策に努めています。職員全体の理解を深められるよう社内研修を開催しています。気になる事があった時には常に運営会議ミーティングで話し合い防止に努めています。	「職員セルフチェックシート」を作成し、「利用者の人権を尊重し、接し方や呼称に配慮している」など22項目について自己チェックしています。さらに、「虐待早期発見チェックリスト」も用意し、利用者の様子などから虐待の兆候をつかむことも行っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護が必要とされる背景や権利侵害が行われている場合の必要については職員間で速やかに共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、担当者が説明をし、ご家族様の不安や疑問にお応えできるよう十分な説明をし理解した上でサービスの提供が行われているよう心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や来訪時、家族とコミュニケーションを取るようにしています。近況報告をする際、意見や要望等を気兼ねなく言ってもらえる雰囲気を作るよう心掛けています。意見や要望はミーティング等で共有しサービスの向上に努めています。	利用者の誕生日会を行う際は当該利用者の家族にも声をかけて、ケーキやおやつを一緒に楽しめる場を設けています。誕生日会をはじめ各種イベントなどでは写真を撮り、それをおたよりにまとめて家族に送付しています。それ以外にも状況変化などがあった時はその都度電話連絡し、合わせて意向や要望も聞いています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、開催される運営会議において各ユニットのミーティングで上がった議題（意見や提案等）報告または相談できる場を設けています。また会議の内容は各ユニットへ報告し情報共有しています。	毎月、フロアごとにミーティングを開き、意見や提案を聞いています。そこで出た意見などは、法人幹部、マネジャー（施設長）、リーダーなどが集う「運営会議」で報告し、対応も協議しています。運営会議の結果は各職員にも伝えていきます。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休の受け入れ、家庭の状況に合わせた勤務体制を取っており働きやすい環境に努めています。職位、資格に合わせて給与額が設定されており、やりがいを持って働ける環境が整備されています。	職員には、一般、サブリーダー、リーダーという職位があり、経験や能力に応じて職位が上がり、報酬面でも報いるようにしています。公休は年に120日程度を確保し、有給休暇も取りやすいよう配慮しています。こうした取り組みにより、職員の定着率は高くなっています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には介護の基礎から利用者様への関わりについて丁寧な指導を実施しています。社内研修はシフトに組み入れ多く参加できるよう工夫をしています。「実践者研修」他、外部研修に関しても積極的に参加できるような環境が整っています。	新入職員の育成は、同一法人1つの事業所で3ヶ月間OJTによる研修を行い、次に別の事業所での3ヶ月間の研修期間を経て、その後配属先を決定することとしています。研修は、内部研修を充実させるとともに、外部研修に参加できる機会も提供しています。学びながら知識技能を向上させ、実務に活かせる仕組みを整えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市の開催するキャラバンメイト連絡会や社会福祉協議会等の開催行事に積極的に参加することで同業者のネットワークを作り交流を深めサービスに役立てています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階でご本人様の困っていること、求めていること、要望などを傾聴し、受け入れられるような関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始にあたり、ご家族が現在抱えている不安や悩み、考えや思いを持っているか等を理解し、どのように支援していけるかを共に考えていけるよう関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様、ご家族様のお話を伺い必要なことを見極めていきます。必要があればマッサージ他、多職種のサービスも取り入れ支援できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様に寄り添い得意分野(食器拭き、洗濯物干し、たたみ、モップ掛け、新聞たたみ、ゴミ箱作り他)を探りながら毎日の生活の中で活かせるよう配慮をしながら共に生活を送る良い関係を構築しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	広報新聞やハガキで日々の様子を伝え、来訪時や電話で体調面等をお話するようにしています。ホームでの困りごと等、常に共有し一緒に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	入所時の面接からご本人様の趣味や出身地、生活リズムをお聞きし支援に役立てられるよう努めております。ご家族様にも協力していただきご本人様の思い入れのあるものをお部屋に飾るようにしています。	外部と交流のある利用者が多く、電話や手紙のやり取りや、友人の訪問の際には、一緒におやつを食べて貰う機会も設けています。また、職員が支援して家族あてに年賀状を出すなど、利用者の今までの繋がりを大切にしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性やADLに合わせる等状況に応じて席を配置しています。職員も席へ座り会話を持つようにしています。2.3階合同のレクリエーションを定期的に行い利用者様同士の交流の場を作るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した後は、こちらからの積極的なフォローはしておりませんが相談があった場合は丁寧かつ親身に対応させていただいております。入院されている方のお見舞いに行くこともあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に「どうしたいのか？何を求めているのか？」という事を考えた支援を心掛け、困難な場合は日々のかかわりの中で性格、言動や表情などから気持ちを汲み取り把握するように取り組んでいます。常に職員で話し合い気付いたことを意見交換しています。	利用者の「できることを探す」を目標に、入居前からの生活歴や日々の生活などから思いを汲み取っています。意思疎通が困難な利用者には、「顔をしかめる」など、わずかな反応なども見逃さないようにして支援につなげています。把握した情報は「フロアミーティング」で共有し、ケアに活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様から生活歴、環境、仕事等小さなことでも情報を伺うことにより全体像を把握し日常生活に近い支援を取り入れています。職員間で共有し、その人らしい生活が出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしい暮らし方、生活のリズムを把握するようにしています。心身状態を見ながら持っている力を出し張り合いのある生活ができるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ミーティングを行いケアの内容について意見交換を行っています。定期的ご家族様へ連絡し意向や思いを伺い、医療往診時には常に相談し介護計画に反映させるようにしています。	ミーティングでの意見交換や3ヶ月に1度モニタリングをして普段からの気づきや課題を反映した介護計画を作成しています。家族・医師などの意見も反映しています。「手伝いをしたい」などの本人の希望にも、調理の手伝いなどしてもらうなどを支援計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の体調管理、身体状況については生活記録及び個人記録につけています。毎月のフロアーミーティングにおいても気づきや日常の変化他、小さなことでも職員で情報を共有し介護記録の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じて通院や送迎等に、対応しています。既存のサービスに捉われないよう必要な支援は柔軟な対応が出来るよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	常に近隣への食事レクリエーション、買い物、散歩町内会のお祭り、川崎大師参拝、等、外へ出る事への楽しみ計画しています。訪問美容によるカット、マッサージ施術、ボランティア他、暮らしの中になら変わらず地域と密着していけるよう支援しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回提携医療機関による定期往診があり24時間体制、緊急時対応など適切な医療を受けられる体制が整っております。ご本人さま、家族の希望があれば地域のかかりつけ医に受診が出来るよう柔軟に対応しております。	希望のかかりつけ医の受診は可能ですが現在、利用者全員が協力医の内科を月2回、歯科を週1回受診しています。看護師が週1回訪問して健康観察をし、状態に変化があれば対応できるようにしています。眼科などの専門医の受診は家族や職員が同行し、往診ノートとSNSで情報共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の各測定（バイタル、体温、Spo2）往診ノートを活用し体調を常に把握しています。変化に気付いた時には訪問看護へ連絡し適切な医療に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携し早期治療に努めています。情報共有やカンファレンスの場を設け、退院後の生活の安定を図りながら早期に退院できるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様や、ご家族の意向を踏まえ医療関係者と連携を図り取り組んでいます。状況に応じて意志を確認し安心、納得した最期を迎えられるよう確認しながらの支援に取り組んでいます。	契約時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する方針」を家族に提示し確認しています。医師が終末期と判断した際は、医師の説明のもと、家族などと事業所の三者で話し合います。褥瘡対策の仕方などを確認し、家族や職員の不安解消にも考慮して看取介護に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルがあり職員全員が周知するように取り組んでいます。「心配蘇生、応急手当等」定期的に行っていきたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練の他、職員の消火器訓練、夜間想定訓練、避難誘導訓練を行っています。非常食、飲料は3Fに備蓄しています。	夜間の火災などを想定した避難や心肺蘇生の訓練を隣接の同一法人事業所と合同で行っています。水害時の危険度を把握してカセットコンロや水、缶詰や米など5日分の食品を備蓄し、非常用トイレの準備を検討しています。自然災害と感染症の業務継続計画を作成しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に自尊心を傷つけないように心掛け、言葉掛けや対応に配慮をしています。新しく入られた利用者様に関しては背景をフロアーミーティングで共有する等、チームで理解し徹底して対応するよう努めています。	申し送りなどは、利用者の名前を伏せ、部屋番号で行っています。排泄介助の声掛けや排泄確認は小声で行い、耳の不自由な人には聞きやすい耳の近くで声をかけています。「認知症の理解」などの研修で学びを深め、利用者の誇りを損ねない言葉かけや対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段の会話や症状などから自己決定できるように努めています。食レクでは食べたい物をリクエストしてもらう等、希望を発言しやすいように働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り1人一人のペースに合わせて支援しています食事時間や入浴日は決っていますが、ご本人の気分や体調に合わせて対応しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	得意な職員がヘアカットを行い、ご本人様の希望の髪型をカット 時にはヘアカラーも行います。衣服はご本人様の好みはもちろんのこと家族様と協力をしています。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜カットや盛り付け等 準備後 片付けまで利用者様と取り組んでいますおやつ買い物や一緒に作る等、楽しい食事を心掛けています。	利用者は盛り付けなどで参加しています。歯科医から食事形態の指導を受け、誤嚥性肺炎の防止に努めています。誕生日会のケーキ作りや、日々のおやつ作りを皆で行い食事が楽しめるような機会を作っています。職員が母国のフォークを振舞うなど、異文化の味や食材に触れる機会を提供するとともに、職員とのコミュニケーションにもなっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1人ひとりの状況に合わせて食事形態を変えています（刻み ミキサー等）訪問医療と連携をしカロリーの過不足を意識しています。 コップを個別にして水分摂取を間違いように努めています。水分不足の方には好きな飲み物を出すようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛けで口腔ケアを促しています自力でできない場合は利用者様を洗面台に誘導、介助するようにしています。訪問歯科（週1回）と連携をして口腔内衛生を保っています 毎日、食事前に口腔体操を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1人ひとりの状況に合わせて排泄パターンを掴み共有しています。 拒否する方はパターンを共有し無理強いすることなく誘導、常にスタッフ間でミーティングを行い検討している 可能な限りトイレで排泄が行われるよう支援しています。	利用者の排泄パターンや落ち着かない様子などを捉えて誘導し、トイレでの排泄に繋げています。布パンツの使用が継続できるよう訪問マッサージの導入や、歩行器を使用しての歩行訓練の支援をしています。職員の支援が功を奏し、入居時におむつ使用の人がリハビリパンツ使用に改善しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品 植物繊維を取り入れてまた体操 散歩等 運動をしてなるべく便薬に頼らず工夫しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	決まった入浴日はありますがご本人様の体調や希望の時間に応じて曜日を変えています入浴後に衣類の選択を決めて、楽しんでもらう配慮をしています。こちらでも入浴剤を入れています。ご家族様やご本人様が使っていた入浴剤を使います。	長湯や湯温など利用者の好みに配慮しています。入浴を拒む理由が羞恥心か生活習慣なのかなどを把握し、声かけは「風呂」の言葉を口にしないなど自然な流れを意識して促し、入浴に繋げています。入浴剤を使用して温泉気分を味わい、鼻唄がきこえるなど、入浴でリラックスできるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1人ひとりの生活パターンをを把握して安心して睡眠時間が取れる様に支援しています。日中の過ごし方次第で夜間の状況が変わります。不安や徘徊する方はフロアーに誘導して、お話をし安心して過ごされる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し出来る限り理解するよう努めています。薬の変更がある場合は、薬局セット、往診ノート、グループラインでスタッフに周知し間違えないようにしています。服薬のチェックは夜勤者セット、日勤は2名で行います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人ひとりができる事を探りその人にあった役割。活動を見て、支援しています。台所 掃除 洗濯物畳 干す 屋上に遊びに行き菜園 日々の生活ができるように努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物 散歩 地域のお祭り、外食等事前に計画している事により外出ができるように努めています。一人ひとりのADLに合わせて対応し出来る限り外気に触れることに努めています。	気分転換や下肢筋力保持を目的に、屋上や駐車場での外気浴や、車いす利用の人も伴って散歩を習慣にしています。近所の店舗におやつや食材の買い物や、車を使用して花見や川崎大師に全員で出かけています。家族と外食や冠婚葬祭、墓参りなどに出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様から預かり管理しています。買い物を希望している時には一緒に買い物へ行くようにしています。預り金からお金を使用する際、ご家族へも連絡をし一緒に支援できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族様と連携してご本人様の希望により、いつでもやり取りをできるように努めています。手紙を書いて頂きスタッフが読んで説明することもあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアーの飾り付けは利用者様と作成しています。塗り絵や貼り絵等は月及び季節毎に作成し落ち着ける空間と季節が分かるように配慮しています。	コロナ禍以降も継続して換気や室温などに配慮しています。曜日を決めて屋上や地域交流スペースのほか日常行えない場所の掃除をして環境整備に努めています。毎月発行する多くの写真を掲載した「みよの便り」を廊下へ掲示しています。時節に応じた貼り絵などの作品を居間の壁面に飾り、会話の糸口にしたり季節を感じ取れるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアーにソファや椅子を配置し利用者様同士がリラックスして過ごせるよう相性やADLを見ながら席を決める配慮をしています。場面場面で席替えもしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の希望を叶える生活リズムを尊重して自宅で愛着のある使いやすい者を使用して頂く等、安心して生活ができるように努めています。仏壇が入っている方もいます。	事業所で備えている物は、エアコン、照明器具、ベッド、カーテンです。仏壇、テレビ、整理ダンス、本などを持ち込み利用者それぞれに個性のある居場所になっています。利用者の目の高さに合わせて動物の作品を扉に貼付し、部屋間違えをする人が不安にならないよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人ひとりに合わせて「できる事」「分かる事」を探り合い目しるしや物の配置他、工夫して自立支援を行いつつ声掛け、見守りをしながら状態に合わせて行ける様に支援しています。		

事業所名	グループホームみよの
ユニット名	みよの3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「利用者の笑顔のため」スタッフ全員で理念を共有し実践に繋がれよう心掛けています。 外国人スタッフ用にフリガナをふったものも準備し理解をしてもらっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事「公園の草むしり、盆踊り大会、廃品回収他、利用者様と参加するし地域とのコミュニケーションを大事にしています。近隣の江川幼稚園とも仲良くしお祭り用のテントを借りる等、協力してもらっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームの行事に参加いただいたり見学していただいたことで地域の方にも認知症の方の理解をしていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月で開催をしている会議では地域とのかかわり、職員研修、行事企画等を計画し意見交換を行い交流を深めよりよいサービスの向上にいかしています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	キャラバンメイトの参加、認知症サポーター開催のお手伝い、地域包括との意見交換会等、積極的に参加しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束、虐待防止委員会による定期的な研修を行い意見を交換しています。また身体拘束があった場合は話し合い、よりよい方法で対応するようにしています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	マニュアルを作成し防止策に努めています。職員全体の理解を深められるよう社内研修を開催しています。気になる事があった時には常に運営会議ミーティングで話し合い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護が必要とされる背景や権利侵害が行われている場合の必要については職員間で速やかに共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、担当者が説明をし、ご家族様の不安や疑問にお応えできるよう十分な説明をし理解した上でサービスの提供が行われているよう心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や来訪時、家族とコミュニケーションを取るようにしています。近況報告をする際、意見や要望等を気兼ねなく言ってもらえる雰囲気を作るよう心掛けています。意見や要望はミーティング等で共有しサービスの向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、開催される運営会議において各ユニットのフォーミングで上がった議題（意見や提案等）報告または相談できる場を設けています。また会議の内容は各ユニットへ報告し情報共有しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休の受け入れ、家庭の状況に合わせた勤務体制を取っており働きやすい環境に努めています。職位、資格に合わせて給与額が設定されており、やりがいを持って働ける環境が整備されています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には介護の基礎から利用者様への関わりについて丁寧な指導を実施しています。社内研修はシフトに組み入れ多く参加できるよう工夫をしています。「実践者研修」他、外部研修に関しても積極的に参加できるような環境が整っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市の開催するキャラバンメイト連絡会や社会福祉協議会等の開催行事に積極的に参加することで同業者のネットワークを作り交流を深めサービスに役立てています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階でご本人様の困っていること、求めていること、要望などを傾聴し、受け入れられるような関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始にあたり、ご家族が現在抱えている不安や悩み、考えや思いを持っているか等を理解し、どのように支援していけるかを共に考えていけるよう関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様、ご家族様のお話を伺い必要なことを見極めていきます。必要があればマッサージ他、多職種のサービスも取り入れ支援できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様に寄り添い得意分野(食器拭き、洗濯物干し、たたみ、モップ掛け、新聞たたみ、ゴミ箱作り他)を探りながら毎日の生活の中で活かせるよう配慮をしながら共に生活を送る良い関係を構築しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	広報新聞やハガキで日々の様子を伝え、来訪時や電話で体調面等をお話するようにしています。ホームでの困りごと等、常に共有し一緒に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所時の面接からご本人様の趣味や出身地、生活リズムをお聞きし支援に役立てられるよう努めております。ご家族様にも協力していただきご本人様の思い出のあるものをお部屋に飾るようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性やADLに合わせる等状況に応じて席を配置しています。職員も席へ座り会話を持つようにしています。2.3階合同のレクリエーションを定期的に行い利用者様同士の交流の場を作るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した後は、こちらからの積極的なフォローはしておりませんが相談があった場合は丁寧かつ親身に対応させていただいております。入院されている方のお見舞いに行くこともあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に「どうしたいのか？何を求めているのか？」という事を考えた支援を心掛け、困難な場合は日々のかかわりの中で性格、言動や表情などから気持ちを汲み取り把握するように取り組んでいます。常に職員で話し合い気付いたことを意見交換しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様から生活歴、環境、仕事等小さなことでも情報を伺うことにより全体像を把握し日常生活に近い支援を取り入れています。職員間で共有し、その人らしい生活が出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしい暮らし方、生活のリズムを把握するようにしています。心身状態を見ながら持っている力を出し張り合いのある生活ができるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ミーティングを行いケアの内容について意見交換を行っています。定期的ご家族様へ連絡し意向や思いを伺い、医療往診時には常に相談し介護計画に反映させるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の体調管理、身体状況については生活記録及び個人記録につけています。毎月のフロアーミーティングにおいても気づきや日常の変化他、小さなことでも職員で情報を共有し介護記録の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じて通院や送迎等に、対応しています。既存のサービスに捉われないよう必要な支援は柔軟な対応が出来るよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	常に近隣への食事レクリエーション、買い物、散歩町内会のお祭り、川崎大師参拝、等、外へ出る事への楽しみ計画しています。訪問美容によるカット、マッサージ施術、ボランティア他、暮らしの中にならぬ地域と密着していけるよう支援しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回提携医療機関による定期往診があり24時間体制、緊急時対応など適切な医療を受けられる体制が整っております。ご本人さま、家族の希望があれば地域のかかりつけ医に受診が出来るよう柔軟に対応しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の各測定（バイタル、体温、Spo2）往診ノートを活用し体調を常に把握しています。変化に気付いた時には訪問看護へ連絡し適切な医療に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携し早期治療に努めています。情報共有やカンファレンスの場を設け、退院後の生活の安定を図りながら早期に退院できるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様や、ご家族の意向を踏まえ医療関係者と連携を図り取り組んでいます。状況に応じて意志を確認し安心、納得した最期を迎えられるよう確認しながらの支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルがあり職員全員が周知するように取り組んでいます。「心配蘇生、応急手当等」定期的に行っていきたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練の他、職員の消火器訓練、夜間想定訓練、避難誘導訓練を行っています。非常食、飲料は3Fに備蓄しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に自尊心を傷つけないように心掛け、言葉掛けや対応に配慮をしています。新しく入られた利用者様に関しては背景をフロアーミーティングで共有する等、チームで理解し徹底して対応するよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段の会話や症状などから自己決定できるように努めています。食レクでは食べたい物をリクエストしてもらう等、希望を発言しやすいように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り1人一人のペースに合わせて支援しています食事時間や入浴日は決っていますが、ご本人の気分や体調に合わせて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	得意な職員がヘアカットを行い、ご本人様の希望の髪型をカット 時にはヘアカラーも行います。衣服はご本人様の好みはもちろんのこと家族様と協力をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜カットや盛り付け等 準備後 片付けまで利用者様と取り組んでいますおやつ買い物や一緒に作る等、楽しい食事を心掛けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1人ひとりの状況に合わせて食事形態を変えています（刻み ミキサー等）訪問医療と連携をしカロリーの過不足を意識しています。 コップを個別にして水分摂取を間違いように努めています。水分不足の方には好きな飲み物を出すようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛けで口腔ケアを促しています自力でできない場合は利用者様を洗面台に誘導、介助するようにしています。訪問歯科（週1回）と連携をして口腔内衛生を保っています 毎日、食事前に口腔体操を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1人ひとりの状況に合わせて排泄パターンを掴み共有しています。 拒否する方はパターンを共有し無理強いすることなく誘導、常にスタッフ間でミーティングを行い検討している 可能な限りトイレで排泄が行われるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品 植物繊維を取り入れてまた体操 散歩等 運動をしてなるべく便秘に頼らず工夫しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	決まった入浴日はありますがご本人様の体調や希望の時間に応じて曜日を変えています入浴後に衣類の選択を決めて、楽しんでもらう配慮をしています。こちらでも入浴剤を入れています。ご家族様やご本人様が使っていた入浴剤を使います。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1人ひとりの生活パターンをを把握して安心して睡眠時間が取れる様に支援しています 日中の過ごししかたで夜間の状況が変わります 不安や徘徊する方はフロアーに誘導して、お話をし安心して過ごされる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し出来る限り理解するよう努めています。薬の変更がある場合は、薬局セット、往診ノート、グループラインでスタッフに周知し間違えないようにしています。服薬のチェックは夜勤者セット、日勤は2名で行います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人ひとりができる事を探りその人にあった役割 活動を見て、支援しています 台所 掃除 洗濯物畳 干す 屋上に遊びに行き菜園 日々の生活ができるように努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物 散歩 地域のお祭り、外食等 事前に計画している事により外出ができるように努めています。一人ひとりのADLに合わせて対応し出来る限り外気に触れることに努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様から預かり管理しています 買い物を希望している時には一緒に買い物へ行くようにしています。預り金からお金を使用する際、ご家族へも連絡をし一緒に支援できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族様と連携してご本人様の希望により、いつでもやり取りをできるように努めています。手紙を書いて頂きスタッフが読んで説明することもあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾り付けは利用者様と作成しています。塗り絵や貼り絵等は月及び季節毎に作成し落ち着ける空間と季節が分かるように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにソファや椅子を配置し利用者様同士がリラックスして過ごせるよう相性やADLを見ながら席を決める配慮をしています。場面場面で席替えもしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の希望を叶える生活リズムを尊重して自宅で愛着のある使いやすい者を使用して頂く等、安心して生活ができるように努めています。仏壇が入っている方もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人ひとりに合わせて「できる事」「分かる事」を探り合い目しるしや物の配置他、工夫して自立支援を行いつつ声掛け、見守りをしながら状態に合わせて行ける様に支援しています。		

2024年度

事業所名 グループホームみよの
作成日： 令和7年 4月 25日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	3	運営推進会議は4事業所でコミュニケーションを常にとっているため共通の議題で開催することが多かった。	各事業所での単独開催が目標です。	2025年3月より単独で開催を行うことができました。今度も意見や提案や困りごとを募り議題にあげ単独で開催を行っていきます。	3ヶ月